

コエール2021

ソーシャルアクションアカデミー

参加案内



認定NPO法人サービスグラント



認定NPO法人ブリッジフォースマイル

ソーシャルアクションアカデミーは、
子どもを取り巻く問題解決への挑戦を通じて、
ビジネススキルを磨く **超実践型研修プログラム**です。

御社が**今後の活躍を期待する**
ミドルマネジャー・中堅社員のみなさまに
本アカデミーへの参加をご提案いたします。

ゼロから学び、企画し、実践する

STEP 1

課題共有と インプット

1. ソーシャルアクション実践者から学ぶ公開講座
2. アクティビストによる社会課題提起とワークショップ

STEP 2

戦略策定と 実行計画

1. テーマごとにプロジェクトチームを結成
2. ソーシャルアクションを企画し行動計画を立案

STEP 3

ソーシャル アクション

1. ソーシャルアクションの発表
2. 約3カ月の実践期間にソーシャルアクションを実行

- 座学の学びを応用する **実践型ビジネス研修**
 - 一つの事業を、企画から、実行、検証まで経験できる
 - マーケティング、プロモーションを実践できる
 - KGI、KPIの設定と検証（PDCAサイクル）
- 日本社会の問題を解決する **社会貢献型研修**
 - リアルな社会問題を知り、リアルな行動で解決に挑戦する
 - 子どもを取り巻く社会の現状、多様性を深く知ることができる
 - 自社におけるCSR、CSV、SDGsを考えられる

いま足りないもの。かみ合わない現実

➤ NPO側

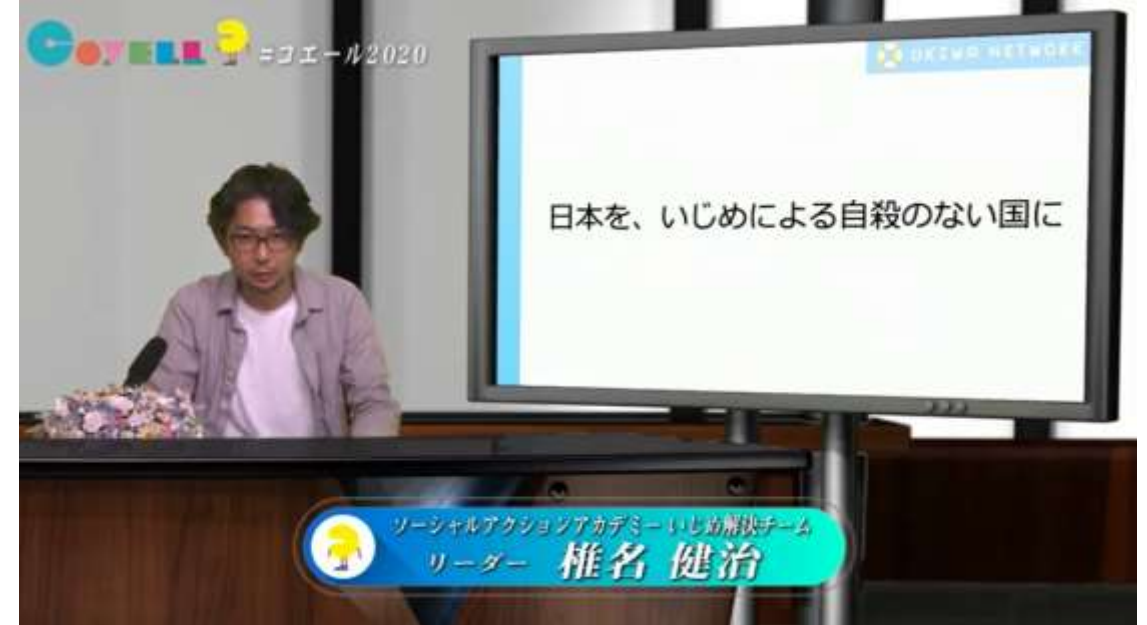
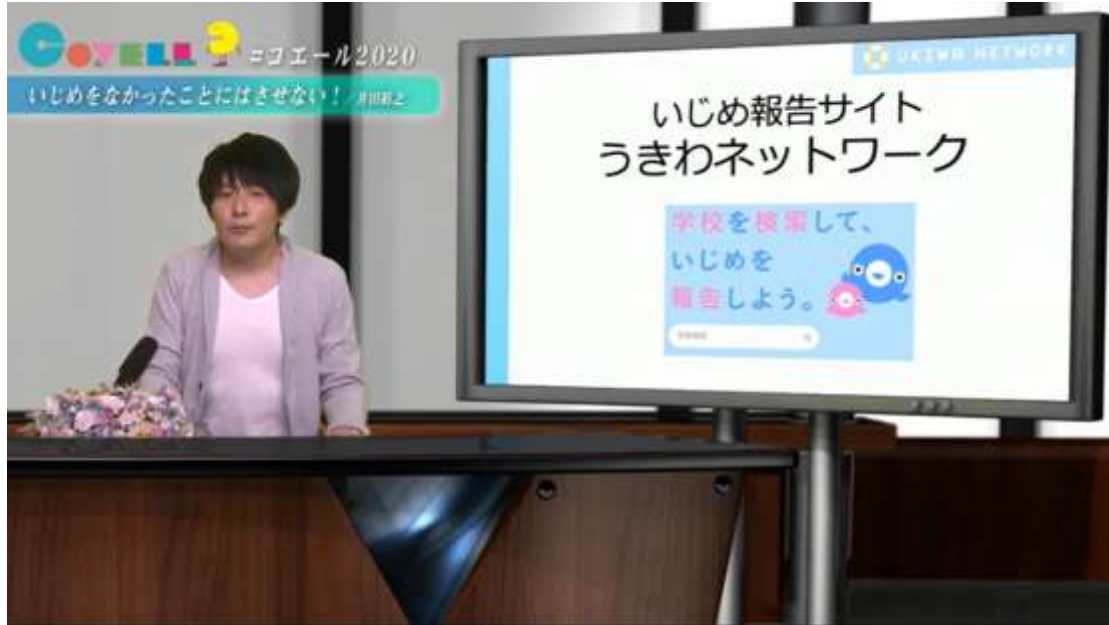
- 親を頼れない子どもたちの声を聴き、**なんとかしなくちゃ**、という強い焦り
- 解決に向けて奮闘するも、**力不足を痛感**
- 問題解決に**関わる人が変わらない**、**広がらない**
- **影響力のある企業や能力の高い企業人**がもっと携わってくれたら、という切実な願い

➤ 企業側

- **SDGsやSRI（社会的責任投資）**など、言葉ばかりが先行し追いついてない
- 「**当事者**」や「**マイノリティ**」への**認識の甘さ**が社会問題になることもある
- **やらないリスクも、やるリスクもあり**、どうしていいかわからない

リアルに触れる半年間

- **コエールの舞台はとてつもないリアリティ**
 - イルミネーター：親を頼れない子ども時代を過ごした当事者
 - アクティビスト：現場で問題解決に奮闘する当事者
- **本気の舞台でプレゼンする体験**
 - 子どもを取り巻く問題に関心のある、**500人～1000人**
 - 一般人、著名人から、福祉従事者、当事者（児童養護施設の子どもたち）まで
 - プレゼンは、**5分**。「伝える」ではなく「伝わる」必要性
- **普遍的なプログラム**
 - 企業人がリアルを知ることで、もっと社会がよくなる
 - 半年間の体験を通じて、いま企業がなぜ社会貢献が必要か腹落ちする



子どもをめぐる社会課題をテーマに、500～1,000人規模が集まるイベントで 自分たちが企画した**ソーシャルアクション**をプレゼンする経験



【上段】

左：学校でのいじめ発生を報告する「うきわネットワーク」代表の井田氏
右：「うきわネットワーク」の活動を支援するプロボノチームのプレゼン

【下段】

左：過去2回のコエールには500人前後が参加
中央2点：社会的養護の経験者「イルミネーター」による問題提起
右：コエールの司会として協力いただいている町亞聖さん



高祖常子さん

NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク 理事

2019年、児童福祉法の改正にともない親による体罰の禁止が明記されました。しかしながら日本では、親による体罰は一定程度容認されています。一見尤もに見える体罰容認論は、エスカレートすると児童虐待に結びつく危険もはらんでおり、社会全体として体罰が禁止されている理解を共有することは子どもの人権を守り、児童虐待防止に寄与することは、数多くの先行する海外の事例が証明しています。

ソーシャルアクションアカデミーでは「体罰に寄らない子育て」に対する社会的理解を広げるためのアクションを企画し実行していきます。



岩朝しのぶさん

NPO法人日本こども支援協会
代表理事

全国で約45,000人の子どもが「社会的養護」による生活を送っています。日本では多くの社会的養護の子どもたちが児童養護施設で暮らす一方で、家庭的な環境で日々を過ごせる里親・養育家庭等への期待は年々高まっています。一方で、生い立ちに難しさを抱える子どもに寄り添い、生活を共にできる良質な里親等を見つけること、そして、里親等が抱えるストレスや悩みに対する支援の体制は決して十分とは言えない状況にあります。

ソーシャルアクションアカデミーでは里親等をめぐる課題を提起し、社会全体で里親等を支える仕組みづくりなどを提言していきます。



中島かおりさん

NPO法人ピッコラーレ
代表理事

10代を含む若者が、妊娠しても誰にも相談できずに悩みを抱えてしまう“漂流妊婦”が後を絶ちません。背景には貧困や虐待・DVなど妊婦たちを囲む状況があります。その中には自死や虐待死に至るような深刻な事件に発展するケースも起きています。社会から孤立した妊婦の悩みを理解し、寄り添って相談に応じたり、居場所を提供したりするといった支援の仕組みが求められています。

ソーシャルアクションアカデミーでは、さまざまな事情から妊娠にともなう悩みを抱える女性と生まれてくる子どもたちを支えるために社会ができることを考え提案していきます。

アドバイザー



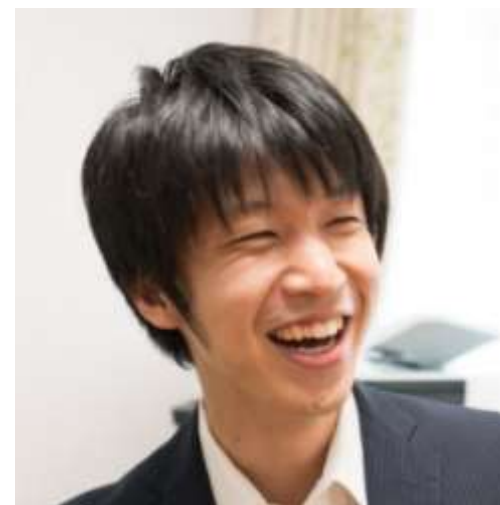
小国士朗さん

株式会社小国士朗事務所
代表取締役／プロデューサー
元NHK番組ディレクター



青野慶久さん

サイボウズ株式会社
代表取締役社長



鬼澤秀昌さん

おにざわ法律事務所
弁護士



嵯峨生馬

認定NPO法人
サービスグラント
代表理事



林恵子

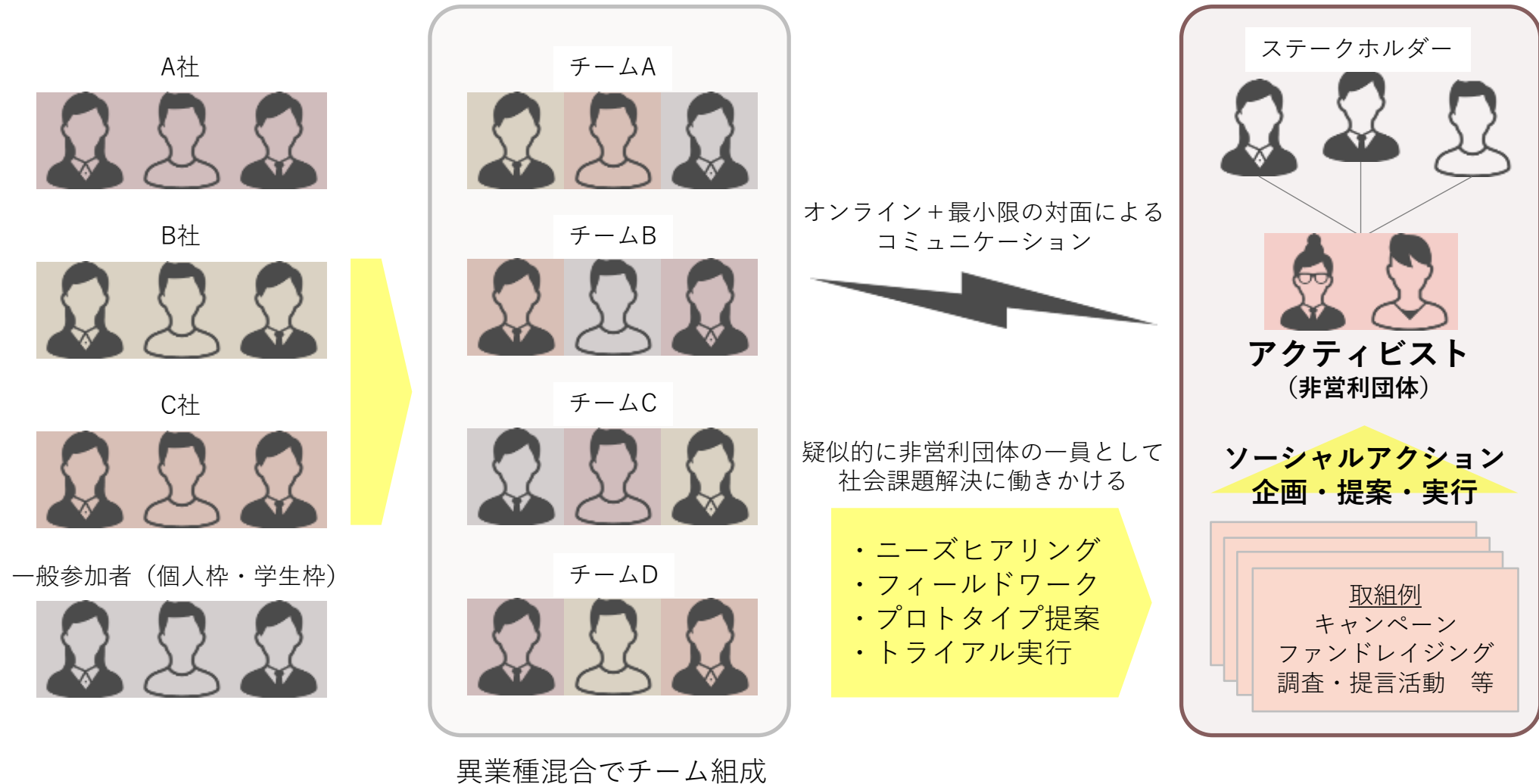
認定NPO法人
ブリッジフォースマイル
理事長

運営兼アドバイザー

- 対象：ミドルマネジメント層・中堅層（入社3年以上～40代まで）
- 募集人数：15～30名（企業枠：10～20名・個人枠：5～10名）※1社3名まで
- 費用：1名につき165,000円_(税込)（個人枠は1名につき99,000円_(税込)※）
- 期間：2021年4月～9月
- 時間数：全体共通30時間（3H×10回）・チーム活動100時間（月およそ20H×5カ月）
- 社会貢献オプション：
 - 若者育成：意欲のある学生（3～6名）募集枠の費用のご負担

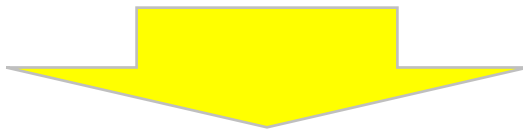
実施体制

普段関わらない他社のメンバーと協働することで、他者を知り、参加者自身が気付きや学びを得る機会。初対面で一からチームを作り上げ、成果を出す経験を通して共創力を磨きます。



サービスグラントのプロボノプロジェクトで成果を発揮するハイパフォーマーには、以下の特徴が見られます。 ※サービスグラントのプロボノについてはAppendix参照

- ① チームにおける役割を自ら見出す
- ② チームワークを尊重し、チームの成果にこだわる
- ③ 課題に粘り強く取組み、課題解決にコミットする



これからの働き方における自律型人材のモデル



社会感度

課題先進国である日本のさまざまな社会課題の解決、持続可能な社会づくりの視点から、企業も新しい事業を生み出すことが求められています。そのためには、社会課題やその解決に向けた活動を肌感覚で捉え、自分事化することが今後ますます重要となります。



共創力

これからは、社内外の多様なメンバーとチームを組んで、目的や期限が定められたプロジェクト型の仕事がますます増えると言われています。複雑化する社会の課題は、一企業が保有しているナレッジやノウハウを超えて、異業種・異セクターとのパートナーシップが解決の糸口となります。



イノベーションマインド

変化の激しい経済環境の中で、イノベーションを生み出し続けることが企業の成長のカギを握ります。これまでの方法に捉われず、組織の変革を促すイノベーションマインドは、これからの企業人一人ひとりに必須とされるマインドセットです。

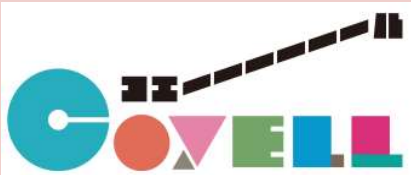
研修スケジュール詳細（前半）

3月1日(月)
参加申込
最終締切

1月16日(土) 10-12	2月6日(土) 10-12	2月17日(水) 20-22	①3月24日(水) 20-22	②4月10日(土) 9-12	③4月24日(土) 9-12	④ 5月8日(土) 9-12
公開講座①	公開講座②	公開講座③	オリエンテーション	社会課題を 深掘りする	アイデアを練る	プランを立てる
夫婦別姓問題に関するアクティビストとしても知られるサイボウズ青野社長の取り組みをご紹介しますとともに、SAAのねらい、プログラム全体像の説明や、受講者に期待することなどをお伝えします。	注文をまちがえる料理店（認知症の啓発）、Delete C（対がん研究の支援）など、影響力・発信力のある社会的ムーブメントの仕掛け人である小国さんから、社会課題と向き合うスタンスや思考法のエッセンスを学びます。	小学校におけるスクールロイヤーの導入を通じて、学校におけるいじめ等の問題における専門家の導入を実現した経験をもとに、鬼澤さんが構想を実現するに至るまでのプロセス・粘り強い交渉の足跡を紹介いただきます。	プログラムの進め方についての詳細な説明のほか、参加メンバーの顔合わせ、ソーシャルセクターや社会的養護などに関する基礎知識に関する講義など、4月からの研修を受講するにあたってのベースとなる理解を共有します。	子どもを取り巻く社会課題に向き合い、解決に取り組むNPO等の運営者（アクティビスト）を囲んで、社会課題の実際を深掘りしながらアクションの方向性を模索していきます。	社会課題のテーマごとにチームに分かれて、課題解決のために働きかけるソーシャルアクションのアイデアを展開します。世界各地の事例などからヒントを得て発想を広げていきます。	チームごとにソーシャルアクションのプランを策定します。目標設定とその評価指標などを定め、成果を最大化するための方法を検討します。また、プランの具体化に向けた調査等をスタートします。
【講師】 青野慶久さん サイボウズ株式会社 代表取締役社長 高祖常子さん NPO法人児童虐待防止全国 ネットワーク 理事	【講師】 小国士朗さん 株式会社小国士朗事務所 代表取締役／プロデューサー 元NHK番組ディレクター 岩朝しのぶさん NPO法人日本こども支援 協会 代表	【講師】 鬼澤秀昌さん おにざわ法律事務所 BLP-Network代表 中島かおりさん NPO法人ピッコラーレ	【講師】 林恵子 認定NPO法人ブリッジフォー スマイル理事長 嵯峨生馬 認定NPO法人サービスグラン ト代表理事	【アドバイザー】 小国士朗さん 【ゲスト】 高祖 常子さん NPO法人児童虐待防止全国 ネットワーク 岩朝しのぶさん NPO法人日本こども支援協会 中島かおりさん NPO法人ピッコラーレ	【アドバイザー】 小国士朗さん 林恵子 嵯峨生馬	【アドバイザー】 青野慶久さん 小国士朗さん 林恵子 嵯峨生馬

ソーシャルアクション
企画立案フェーズ

研修スケジュール詳細（後半）

⑤ 5月下旬(平日)20-22	⑥ 6月中旬(平日)20-22	⑦ 7月3日(土)	⑧ 7月17日(土) 10-12	⑨ 8月21日(土) 10-12	⑩ 9月26日(日) 10-12
中間レビュー① 各チームによるソーシャルアクションの検討状況を共有するとともに、企画をブラッシュアップするためのヒントやアドバイスを提供します。 【アドバイザー】 鬼澤秀昌さん 林恵子 嵯峨生馬	中間レビュー② 各チームによるソーシャルアクションの検討状況を共有するとともに、企画をブラッシュアップするためのヒントやアドバイスを提供します。 【アドバイザー】 林恵子 嵯峨生馬 【ゲスト】 アクティビストのみなさん	コエール 【イベント本番】 社会的養護の当事者「イルミネーター」によるプレゼンテーション、子どもを取り巻く課題に取り組む「アクティビスト」等が集まるイベントにおいて、「ソーシャルアクション」の企画を発表し、聴衆をはじめ広く社会に向けたアクションを呼びかけます。 ※ 開催場所・開催方法等については現在調整中 	中間レビュー③ 各チームによるソーシャルアクションの進捗状況を共有するとともに、アクションをさらに加速するための方法や、必要な修正・新規施策の検討など機動的な対応をディスカッションしていきます。 【アドバイザー】 小国士朗さん 林恵子 嵯峨生馬	中間レビュー④ 各チームによるソーシャルアクションの進捗状況やここまでの成果を共有するとともに、残り1カ月間で取り組むことができる施策の検討などをディスカッションしていきます。 【アドバイザー】 林恵子 嵯峨生馬	最終報告会 ・ふりかえり会 ソーシャルアクションアカデミー全体を振り返り、各チームによる取り組みの成果を共有するとともに、チームの活動を振り返ります。 【総評】 青野慶久さん 小国士朗さん 鬼澤秀昌さん 林恵子 嵯峨生馬 【ゲスト】 アクティビストのみなさん

ソーシャルアクション
企画立案フェーズ

ソーシャルアクション
実行フェーズ

Appendix

親からの虐待や親の精神疾患、経済的な理由など、 さまざまな事情によって親を頼れない子どもたちがいます。

いま日本では**家族**を基本単位として社会制度も、価値観も成り立っています。子育ては親の責任とされ、親が責任を果たせないと認められる場合のみ子どもたちは保護され、公的な枠組み（社会的養護）の下、児童養護施設や里親家庭などで暮らします。その数は約45000人にのぼりますが、予備軍つまり親を頼れない子どもたちはその3倍ともいわれます。

児童相談所への児童虐待相談件数は2018年度約**16万件**となりました。社会の関心が高まっているものの、毎年約50人の子どもたちが虐待により命を落としています。

親を頼れない子どもたちは、大人になってからも、理解者や頼れる大人が身近に少ないため、孤立し、トラブルを抱え込むことが少なくありません。その結果、犯罪被害、高額な借金、無職やホームレス、望まない妊娠、虐待やDVなど、様々な問題につながっていきます。

コエールは、子どもたちを取り巻く問題に関心を持つ人たちと共に、声を上げ、ソーシャルアクションを起こし、**社会全体で子育てを行う社会**へと変えていきます。



※開催実績

【日時】2020年7月4日（土）13:30-16:00

【場所】オンライン開催 チケット2000円

【参加者数】申込592人 視聴件数411件

【内容】

- 1、経験者スピーチ
- 2、支援活動家プレゼンテーション
- 3、ソーシャルアクション提言

2019年度

【日時】2019年7月21日（日）13:30-16:00

【場所】国立オリンピック記念青少年総合センター

【参加者数】558人

<https://coyell.b4s.jp/>



親ありき日本をこえる
子どもを社会で育むための啓発プログラム

1. 経験者スピーチ

当事者の声から問題提起

親を頼れない境遇にあった子ども時代、どんな体験をしたのか。どんな思いでいたのか。いまでも人知れず苦しんでいる子どもたちに光を照らし、その存在を浮かび上がらせるために、スピーチをします。



2. 支援活動家プレゼン

解決策の提示

親を頼れない子どもたちにとって、いま何が問題なのか。どうしたら解決することができるのか。具体的なアイデアとアクションを提言し実行する支援者がプレゼンテーションします。

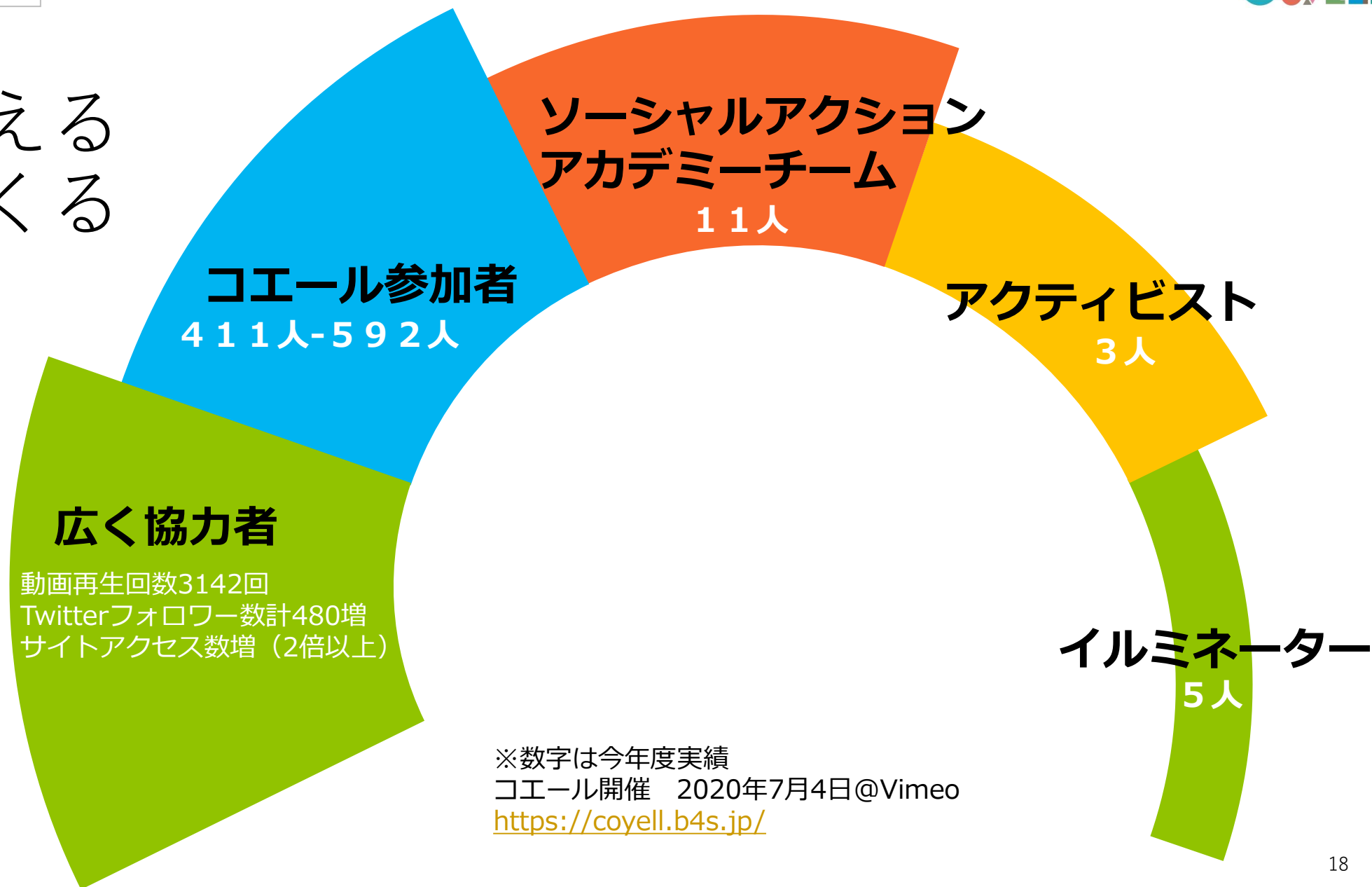


3. ソーシャルアクション提言

協力呼びかけ、行動

ソーシャルアクションアカデミー（支援者の活動に賛同し、ソーシャルアクションを企画する）にて、コエール終了後から2か月間、署名活動、寄付活動、ボランティア参加など、協力を呼びかけ、社会全体で子どもたちを育むために行動します。

社会をかえる
仲間をつくる



※数字は今年度実績
コエール開催 2020年7月4日@Vimeo
<https://coyell.b4s.jp/>

わかりやすく伝える

- ・ 問題
- ・ 解決策
- ・ 協力依頼

**イルミネーター：
スピーチ準備**

**アクティビスト：
プレゼン準備**

**運営チーム：
広報、イベント準備**

**SAAチーム：
ソーシャルアクション
準備**

➤ イルミネーター（親を頼れなかった当事者）

- 自分の存在が（世界から）ないものにされたようだった。（スピーチから）
- いじめ問題に真剣に取り組む大人の存在を知り、世の中捨てたもんじゃないと思えた。

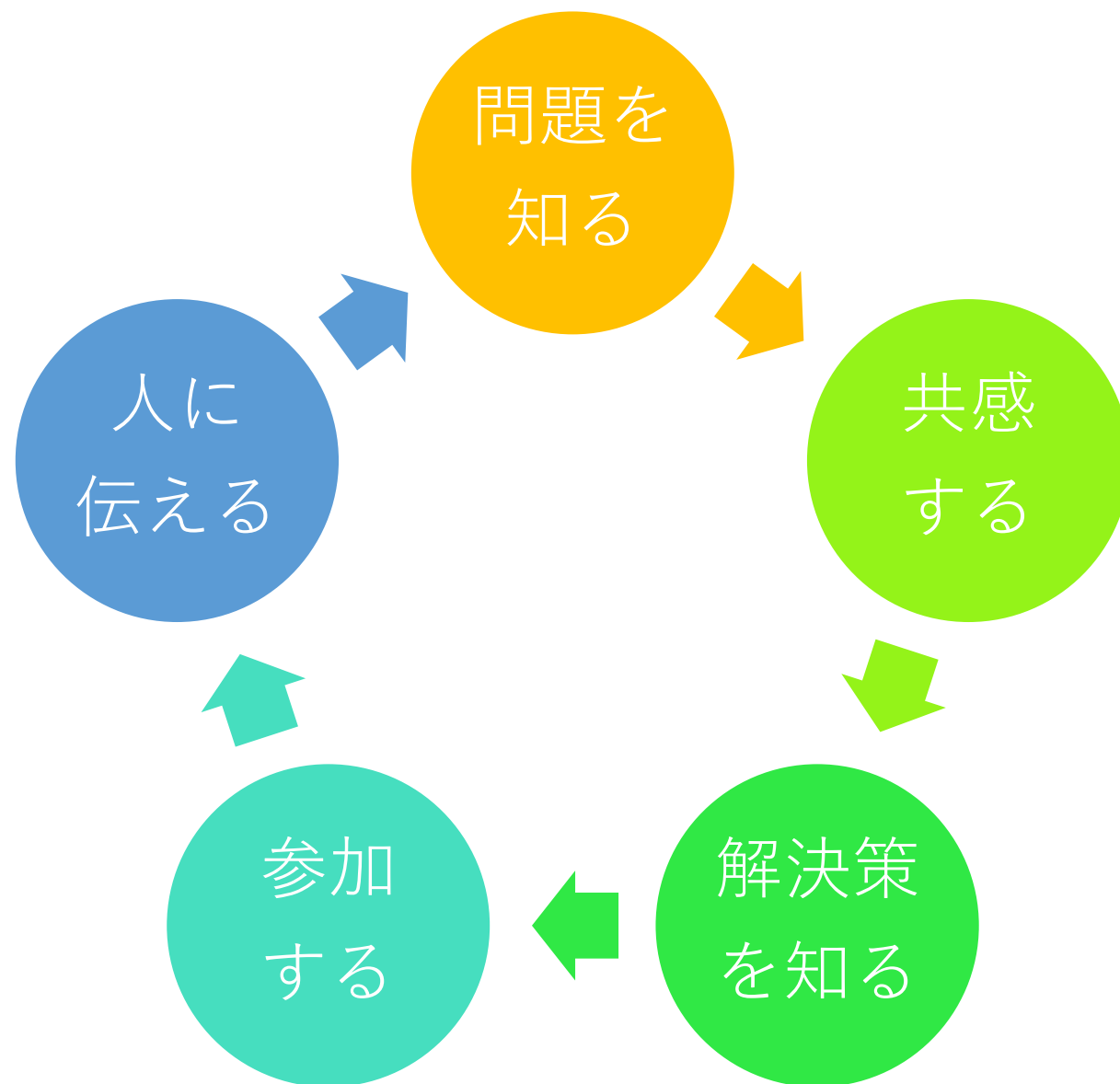
➤ アクティビスト

- もう止めようと思った時に、子どもからのSOSが入ると、がんばらなくちゃと思った。
- 能力の高い人たちがこんなに手を動かしてくれて、本当にありがたかった。

➤ 聴衆

- 当事者の方の声をはじめて聞いて自分の概念が覆されました。衝撃でした。
- 実際にイルミネーターの方々のお話を聴け、親を頼れない方々にとって日本はまだまだ生きづらい世の中なのだなと感じました。
- 既知・未知だった問題とも、実際に悩んで苦しんでいる方々たちの声を聞くことには非常に意味があったし、自分が何ができるか、考える良いきっかけとなりました。

誰でも参加できる ソーシャルアクション を作り出す





コエールとは？

コエールコラム

イルミネーターのスピーチ

ソーシャルアクション

開催概要



ソーシャルアクション

子どもたちを取り巻く問題は、山積しています。
問題解決のために行動する仲間が増えないと、社会は変わりません。
一緒に行動する仲間になってください！

ソーシャルアクション月間 2020年7月4日～9月26日

 虐待死をゼロに！  いじめ可視化！  親権者同意問題！

PLEASE JOIN US!

1、体罰によらない子育ての普及啓発

子ども向け商品に啓発コンテンツの掲載依頼
動画コンテンツのシェア

2、親以外の保護者同意サインの普及

問題認知度アンケートの実施
啓発コンテンツのシェア

3、学校でのいじめ解決の推進

寄付（賛同者）募集
インターネットサイトの認知拡大、拡散

【課題】

- ✓ 成果の質的・量的な達成度に関して、チームによるばらつきが出た
- ✓ ソーシャルアクションの実例・実践者が少ない（署名、寄付、政策提言、SNS拡散）
- ✓ 短期間でのゴール設定、実践の難しさ（企画 5月～7月、実践 7月～9月）
- ✓ 役割分担、主体者があいまい（企業アプローチ、SNSの運用など）
- ✓ 主体性の尊重とチームビルディング

職業上のスキル・経験等を
ボランティアとして提供し
社会課題の解決に
成果をもたらすこと。

「プロボノ」の語源

(ラテン語)

**Pro
Bono**

Publico

[プロボノプブリコ]

(英語)

**For
Good**

Public

[For Public Good]

(日本語)

公共善のために

もともとは・・・

「弁護士など法律に携わる職業の人々が無報酬で行うボランティアの公益事業、あるいは公益の法律家活動を指した」

(Wikipediaより)



日本におけるプロボノの草分けとして、数多くのプロボノワーカーを集め、15年以上にわたり1,000件近いプロボノプロジェクトを運営してきました。

※ 2005年～現在までの累計

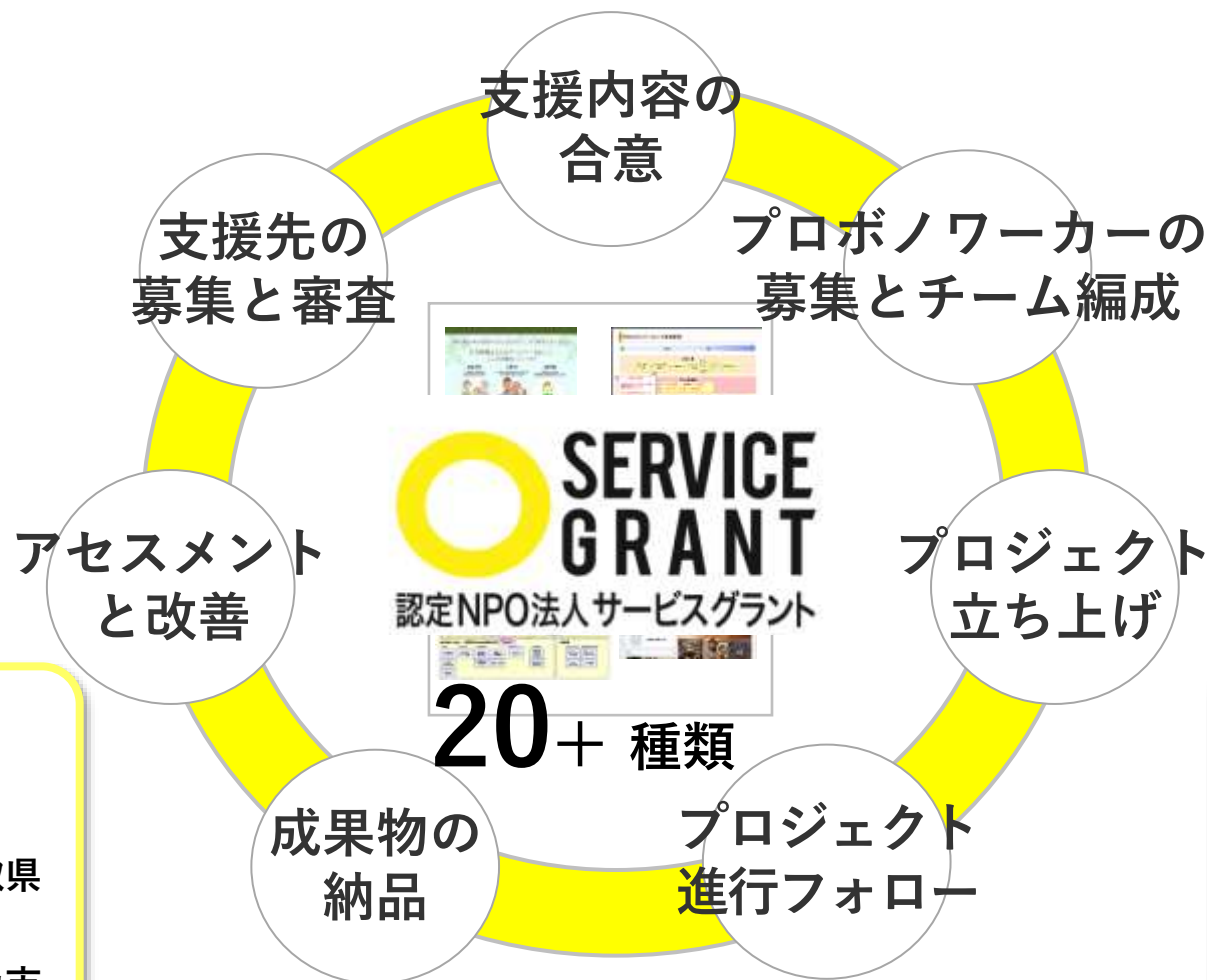


NPO・地域団体

995件

行政との協働

東京都 大阪府 農林水産省
神奈川県 千葉県 青森県 鳥取県
川崎市 横浜市 神戸市
松戸市 四日市市 生駒市 福山市



プロボノワーカー

4,434名

企業との協働

Panasonic

住友商事

Enriching lives and the world



SMFG

三井住友フィナンシャルグループ
MITSUBISHI SUMITOMO FINANCIAL GROUP

HITACHI

Inspire the Next

ソーシャルアクションアカデミー 協働運営団体
認定NPO法人サービスグラント



代表者：嵯峨生馬

所在地：東京都渋谷区渋谷1-2-10 中里ビル4F

活動開始：2005年1月 法人設立：2009年 5月13日

事業内容：プロボノを通じたNPO・地域団体等の基盤強化支援

組織規模：スタッフ23人 登録プロボノ参加者 約6,200名

年間予算規模：約1億3千万円

行政受託事業：東京都、大阪府、横浜市等にて実施

コエール運営団体
認定NPO法人ブリッジフォースマイル



代表者：林恵子

所在地：東京都千代田区大手町2-6-2 (株)パソナグループ内

設立：2004年12月5日 法人成立：2005年6月8日

事業内容：社会的養護の子どもたち、若者たちへの自立支援

組織規模：スタッフ 28人（常勤21人 非常勤7人）

ボランティア 約300名 賛助会員約200人 協力企業 約150社

年間予算規模：約1億5千万円

行政受託事業：東京都、横浜市、佐賀県にて実施